

ラトビア月報

【2013年6月】



2013年（平成25年）7月発行
在ラトビア日本国大使館
<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【内政】

- ・ リガ市議会選挙結果とリガ市長の再選
- ・ ソ連及びナチのシンボルの使用を禁ずる法案の可決
- ・ 閣議のインターネット中継開始

【経済】

- ・ ユーロ導入に向けての動き
- ・ ラトビアの第1四半期の経済成長率はEU内で最高
- ・ S & Pがラトビアの格付を一段階引上げ

【外交】

- ・ ラトビア・露外相会談
- ・ アフガニスタン復興支援

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料を取りまとめたものです。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。 「在ラトビア日本大使館作成の資料によれば」といった引用は避けていただくようお願いいたします。

【内政】

◆リガ市議会選挙とリガ市長の再選

1日に統一地方選挙が行われ、その暫定結果が中央選挙管理委員会により発表された。注目されていたリガ市議会選挙の結果については、国政最大野党の親露政党でリガ市議会与党「調和センター」及び「リガのために」の連合会派が、58.6%の得票率で、絶対多数の議席（60議席中39議席）を獲得して圧勝した。20日、「調和センター」のウシャコウス代表は、この選挙結果を背景にリガ市長再選を果たした。

◆閣議のインターネット中継開始

11日から、閣議のインターネット中継が開始され、初日は千人以上が視聴した。同中継により、より多くの国民が意思決定に参画でき、政府の意思決定プロセスの透明性が増すこと、さらに政府とマス・メディアとの良好な関係に資することが期待されている。

◆国外への移民問題

ベルズィンシュ大統領は、13日にスロヴァキアのブラチスラヴァで行われた第18回中欧大統領会合において、今日ラトビアが直面している最大の問題は国外への移民であることを指摘した。中央統計局によるとラトビアの人口は2013年1月1日時点で202万2千人（男性：92万7千人 女性：109万5千人）となっており、対前年同期比で約2万人減少している。

◆ソ連及びナチのシンボルの使用等を禁止する法案の可決

20日、国会は、公の行事においてソ連及びナチのシンボルの使用等を禁止する法案を可決した。旧ソ連邦及びナチスドイツのシンボル（様式化されたものも含む）をいかなる公の行事で使用することが禁止される。同シンボルには旗、紋章、賛歌、ナチのカギ十字、ナチス親衛隊のシンボル、鎌と槌、赤い星（五芒星）等の使用が禁止され、また、ラトビアの独立と領土保全に対立することを目的とした活動、法規を無視し、暴力的にラトビアの政治制度の変革を要求すること、暴力や憎悪を扇動すること、また、ナチ、ファシストあるいはコミュニスト・イデオロギーを宣伝することについても禁止される。

【経済】

◆ユーロ導入に向けての動き

●EC及びECBによる収斂報告書の発表

5日、欧州委員会（EC）及び欧州中央銀行（ECB）は、ラトビアの2014年1

月からのユーロ導入の準備状況に関する収斂報告書を公表した。報告書は、ラトビアがユーロ導入のためのマーストリヒト基準（物価・為替レートが金利の長期安定、財政赤字の対GDP比3%未満、政府債務残高の対GDP比6%以下等）を満たしているとの肯定的な内容。

●ユーロ圏の財務相及び欧州理事会による支持表明

20日、ユーロ圏財務相会合で支持が決定された。欧州委員会のオリ・レーン副委員長（経済・通貨担当）は記者会見において、「ラトビアは2014年1月1日よりユーロ圏に加盟する準備ができているという結論を下した。ラトビアのユーロ導入に対する熱意は我々の共通通貨が信用されていることの証である。ラトビアの経験は、マクロ経済の不均衡が克服できることを示す実例であった」など述べた。28日、欧州理事会において支持が表明され、その際、ドンブロウスキス首相は、ラトビア及びユーロ圏双方にとって正しい決定であり、ユーロ圏への参加は、マクロ経済と財政の安定に関する自国の責任を免れさせるものではなく、逆に、ラトビアのかかる責任を増大させるものであると述べた。

●7月3日の欧州議会での決議を経て、7月9日のEU財務相会合（ECOFIN）において最終的に決定される。

◆ユーロ導入に関する世論調査結果

民間調査会社 Factum が行った最新の世論調査（4月26日～5月17日、15歳以上の1,020名が対象）によれば、ラトビア居住者の38%がラトビアのユーロ導入を支持、53%が反対。反対者の内訳は、25%がユーロ導入に強く反対、28%は懐疑的となっており、ユーロ導入支持者の多くは若者で、高等教育を受けた高所得者、反対者の多くは高齢者であった。次回調査は7月に実施予定。

◆ラトビアの第1四半期の経済成長率はEU内最高

5日のユーロスタット（欧州統計局）発表によると、ラトビアの2013年第1四半期経済成長率はEU内最高の対前年同期比5.6%を記録した。また、対前期比でもEU域内でリトアニアに次ぐ1.2%の成長を記録している。EU域内全体での経済成長は、対前年同期比で0.7%、対前期比では-0.1%であった。

◆S & Pがラトビアの格付を一段階引上げ

10日、格付会社「Standard & Poor's」はラトビアの格付（短期、長期とも）をBBBからBBB+に一段階引き上げ、見通しを引き続き「安定的」とした。同社は、格付引上げの理由として、ラトビアのユーロ導入に向け、欧州委員会及び欧州中央銀行から肯定的な内容の収斂報告書が出されたことで、2014年1月のユーロ導入が現実視されることを挙げている。

◆高所得世帯は全世帯の1割弱

GfK（ドイツの大手調査会社）と Nozare. lv の調査結果によると、1か月の収入が300ラツツ（約426ユーロ）以上の世帯はラトビア国内全世帯の7～10%程度にとどまることが明らかになり、これは労働人口の17～20%に相当する。同調査結果から明らかになったリガ在住の標準的な高所得者は、高等教育を受け、企業の管理職や高度専門職に従事している25歳～34歳の年齢層。

◆最低賃金の引上げを政府が承認

11日、政府は社会福祉省の報告を踏まえ、2014年から月額最低賃金を現在の200ラツツから225ラツツ（約320ユーロ）へ引き上げることを選定した。ドンブロウスキス首相は、この最低賃金の引上げについて、ラトビア人の貧困を減少させるステップの一つであると評価した。公式統計によると、ラトビアでは全労働者の26%に当たる約20万人が最低賃金で雇用されている。

◆ラトビア最大手のベニヤ・合板製造の Latvijas Finieris 社は、今年2000万ユーロ超の投資を計画

Latvijas Finieris 社（1992年に設立され、50カ国以上に製品を輸出）は、今年、製品開発、エネルギー効率化計画及びその他の新技術へ1,500万ラツツ（2,130万ユーロ）の投資を計画している。2012年の同社の売り上げは1億2,600万ラツツ（1億7,892万ユーロ）と、対前年比で6%の増加を示した。

【外交】

◆アブラハミヤン・アルメニア国会議長の来訪

4～6日、アブラハミヤン・アルメニア国会議長はラトビアを公式訪問し、ベルズィンシュ大統領、アーボルティニャ国会議長とそれぞれ会談した。両国は二国間関係、EUアルメニア関係等、両国の大使館開設について協議し、同アルメニア国会議長は両国首都間の直行便の運行を再開するよう要請した。ラトビア国会議長は、本年秋にリトアニアで開催される東方パートナーシップ会合においてEUがアルメニアとの連合協定に署名することに対する支持を表明した。

◆リンケービッチ外相とラブロフ露外相の会談

6日、リンケービッチ外相は、カリニングラードにおけるバルト海諸国閣僚会合の機会に、ラブロフ露外相と会談した。ラトビア外務省発表によれば、両国外相はラトビア・ロシア関係の諸議題についてオープンに協議を行い、リンケービッチ外相から、両

国の国境地域住民の越境渡航の簡略化に関する政府間協定（２０１０年署名）の発行に必要な国内手続きの完了，不動産を対象とした両国政府間協定（２０１２年署名）が発行するための法的手続きの完了について公式に通報した。両国外相は，投資保護協定，越境箇所，直行鉄道運輸及び他の分野に関する協定案分の準備に引き続き取り組むことや，近い将来に外務副大臣間の会談を設定すること及び外交当局間協議の日程を詰めることについて合意し，また，ＥＵ第３エネルギー・パッケージと呼ばれているものに関連したことも含め，エネルギー・セクターにおける現在の進捗状況についても協議した。

◆ケニー・アイルランド首相の来訪

６日，ケニー・アイルランド首相はラトビアを訪問し，ベルズィンシュ大統領及びドゥブロウスキス首相とそれぞれ会談した。アイルランド首相は２０１４～２０２０年のＥＵ多年度予算に関してアイルランドのＥＵ議長国時である今月末までに成果を出す述べ，またアイルランドにおけるラトビア人と第三国国籍者との偽装結婚問題に関して法改正等を行う予定であることを説明した。

◆パブリクス国防相のドイツ訪問

６～７日，パブリクス国防相はハンブルクの連邦軍指揮幕僚大学校において欧州安全保障に関して講演し，また，ハンザ会議（環バルト海地域の商工会議所等が集まり研究・技術革新等の分野における中小企業の成長を促進するＮＧＯ団体）において，国防と経済の関係に関して講演した。同国防相は，シュミット独国防務官と会談し，ラトビアのＮＡＴＯ戦略連携センター（NATO Center of Excellence for Strategic Communication）設立を支持するよう要請した。

◆ドゥブロウスキス首相のフィンランド訪問

７日，ドゥブロウスキス首相はフィンランドで開催された Economic Ideas Forum に出席した。同会合において，同首相はＥＵレベルにおける銀行連盟設立を含む構造改革及び若者の失業問題解決の必要性を指摘した。

◆コモロフスキ・ポーランド大統領の来訪

９日，コモロフスキ・ポーランド大統領はラトビアを訪問し，ベルズィンシュ大統領と会談した。両大統領はリトアニア・ポーランド間のガス・パイプラインを含むエネルギー分野における協力，ＮＡＴＯ等の国際機関における協力，ＥＵ・ユーロ圏情勢等に関して協議した。両者はラトビア東部の中心都市ダウガウピルスを訪れ，ラトガレ地方（ラトビア東部）とマウオポルスカ県（ポーランド南部）との協力協定に署名した。

◆アフガニスタン復興支援

11～12日、リガにおいて、ラトビア外務省・運輸省主催により、アフガニスタン及び中央アジアに通じる物資輸送ルート（北部流通ネットワーク：NDN）の活用に関する国際ワークショップ（Arteries Connecting the Heart of Asia to the Global World）が開催された（昨年に続き2回目）。リンケービッチ外相は、開会スピーチの中で、ISAF撤収後もアフガニスタンにおける治安維持を支援したいとのラトビア政府の意向を表明し、また、アフガニスタン復興支援に資する経済関係促進のためのNDNの商業目的の民間活用と、そのための専門家の育成の重要性等を指摘した。

◆ラトビアの欧州議会議席数が1議席減

12日、欧州議会は2014年欧州議会選挙以降の同議会各国議席配分に関する法案を賛成574、反対71、棄権39で可決した。全議席数は751議席、ラトビアは1議席減らして8議席となる。

◆ロシア下院議員の来訪

12～15日、露ラトビア友好議連会長を含むロシア国家院（下院）議員はラトビアを訪問し、14日、リービニャ＝エグネレ国会副議長と会談した。両国関係者は経済関係のみならず、文化及び政治関係を強化することで一致した。

◆リンケービッチ外相のチュニジア訪問

16～18日、リンケービッチ外相はチュニジアで開催された「Freedom Online 2013」会議（インターネットにおける言論の自由がどの様に社会、文化、経済等の発展に役立つかを議論）に出席した。同外相は、開かれた責任ある公的機関設立のためにラトビアが導入した電子サービス（e-service）等に関する実績を共有する用意があると述べた。また、同外相はジャランディ・チュニジア外相と会談し、近い将来、二国間の租税条約を締結することで一致した。

◆ラトビアで死亡したエストニア兵のための追悼碑除幕式

18日、パブリクス国防相及びレインサル・エストニア国防相は、マザサラツァ（リガの北東約120キロ）において、1918年のラトビア独立に際して戦死したエストニア兵のために追悼碑の除幕式に出席した。また、両国国防相はリガにおけるNATO戦略連携センター設立、サイバー攻撃、アフガニスタン及びマリ情勢等について意見交換した。

◆パブリュッツ経済相の訪露

パブリュッツ経済相はサンクト・ペテルブルクにおいて開催された第17回国際経済

フォーラムに出席した。同経済相はマントゥロフ露産業貿易相と会談し、二国間の経済関係強化の可能性、ロシアのWTO加盟等について意見交換した。

◆リンケービッチ外相のリトアニア訪問

リンケービッチ外相は、リトアニアのカウナスにおいて開催されたバルト三国ドイツ外相会合に出席した。同外相は、EUはロシアとの対話において、実務的な協力に関する特定の問題を重点的に担うべきであることを強調し、この協力は、民主主義国家が受け入れる基本的価値と自由に根ざしたものであるべきことをリマインドした。

以上

2013年6月の主な出来事

日付	【内政】	【外交】
1日	統一地方選挙	
2日		ベルズィンシュ大統領カザフスタン訪問（～4日）
3日		
4日		
5日	欧州委員会及び欧州中央銀行が、ラトビアのユーロ導入準備状況に関する肯定的内容の収斂報告書を発表	アルメニア国会議長来訪（～6日） リンケービッチ外相バルト海諸国閣僚会合（於：カーニングロード）出席
6日		ケニー・アイルランド首相来訪
7日		
8日		
9日		
10日		
11日	閣議のインターネット中継開始	メレドフ・トルクメニスタン外相来訪（～12日）
12日		ベルズィンシュ大統領、第18回中央ヨーロッパ大統領会合（～13日、於：スロバキア）に出席。
13日		
14日	シベリア流刑（1941年）被害者追悼の日	ドンブロウスキス首相オーストリアで開催される年次欧州フォーラム（於：オーストリア）出席
15日		
16日		
17日	73回目ソ連による占領（1940年）記念日	リンケービッチ外相、「Freedom Online 2013」会議（～18日、於：チュニジア）に出席
18日		
19日		
20日	公の行事でソ連及びナチのシンボルの使用等を禁止する法案が国会で可決 ウシャコウス・リガ市長が再選	ドンブロウスキス首相欧州人民党会合（於：ウィーン）出席
21日		リンケービッチ外相バルト諸国・ドイツ外相会合出席
22日		
23日		
24日		
25日		
26日		ドンブロウスキス首相欧州議会の「Baltic Way」（1989年8月23日）記念式典出席
27日		ドンブロウスキス首相欧州理事会出席（～28日）
28日		
29日		ドンブロウスキス首相クロアチアEU加盟記念行事出席
30日		

ラトビア主要経済指標

1ユーロ = 0.702804 ラツツ (ラトビア中銀レート)

GDP

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
名目GDP	百万ラツツ	16,085	13,070	12,784	14,275	15,520	4,038	中央統計局
国民一人当たりGDP	ラツツ	7,386	6,102	6,096	6,939	7,629	-	中央統計局
GDP実質成長率	%	▲ 3.3	▲ 17.7	▲ 0.9	5.5	5.6	-	Eurostat

財政収支, 政府債務残高

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
財政収支	百万ラツツ	▲ 682	▲ 1,277	▲ 1,040	▲ 489	▲ 194	-	中央統計局
財政収支対GDP比	%	▲ 4.2	▲ 9.8	▲ 8.1	▲ 3.4	▲ 1.2	-	中央統計局
政府債務残高	百万ラツツ	3,182	4,803	5,695	6,028	6,309	-	中央統計局
政府債務対GDP比	%	19.8	36.7	44.5	42.2	40.7	-	中央統計局

失業率, インフレ率, 月額平均賃金

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
失業率	%	5.8	12.8	13.9	11.5	10.5	9.6	中央統計局
インフレ率	%	15.4	3.5	▲ 1.1	4.4	2.3	0.8	中央統計局
平均賃金(グロス)	ラツツ	479	461	445	464	481	486	中央統計局
平均賃金(ネット)	ラツツ	350	342	316	330	343	350	中央統計局

海外直接投資(FDI)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
海外直接投資残高	百万ラツツ	5,711	5,673	5,752	6,578	7,038	7,706	中央銀行

貿易統計

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
輸出(FOB)	百万ラツツ	4,429	3,602	4,695	5,999	6,898	1,635	中央統計局
輸入(CIF)	百万ラツツ	7,528	4,710	5,912	7,719	8,698	2,035	中央統計局
貿易収支	百万ラツツ	▲ 3,099	▲ 1,108	▲ 1,217	▲ 1,720	▲ 1,800	▲ 400	中央統計局